



広島女学院同窓会 佐伯地区だより

(第 32 号) 2018 年 5 月 16 日発行

『2018 年度の聖句』

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば
すべての部分が共に喜ぶのです。 <コリントの信徒への手紙 1・12 章 26 節>



2018 年度を迎えて

佐伯地区長 内山豊子 (高 8)

新しい聖句とともに 2018 年度が始まりました。今年度の年間聖句のテーマは、昨年と同様「共に生きる」です。自己中心傾向にある状況の中で自分を大切にすると同時に周囲に目を向け、その視線を広く社会へ世界へと広げて共に生きていこうとすると自然に世界平和実現へと導かれていくことでしょう。

さて今年の「佐伯地区だより」の編集は副会長の森静子さんが全面的に担当してくださいました。カラー写真なども入れて新しいスタイルで、より楽しいものになっております。これからもこの地区だよりが皆様との交流の窓口となって愛されていくことを願っております。

2018 年度もボランティア活動、クリスマス会【12 月 1 日 (土)】の予定。皆さまのご参加をお待ちしています。



2017 年度活動報告

*地区だより発送作業 5 月 17 日 (16 名参加)

*ボランティア活動 奇数月の第 3 水曜日

*クリスマス会 12 月 2 日 (土) 17 名参加

佐伯区役所別館 5F・お弁当とケーキ(2500 円)

讃美礼拝 (讃美歌を大きな声で歌いました)

*地区総会 3 月 21 日 (水) pm13:00・12 名

*寄付 女学院創立 130 周年記念事業費 5 万円

*クリスマス献金 各施設に 1 万円

清鈴園、止揚学園、広島キリスト教社会館
廿日市高齢者ケアセンター

*2018 年度役員

地区長・内山豊子 副地区長・森 静子

会計・中田チズ 会計監査・山崎みどり

幹事・田中朝子、高山和江、平山純栄

穴戸るり子、田村敦子



お下拭きの作成風景 佐伯地区お仲間同士の和気あいあいとした和やかな顔！

女学院の思い出

中島和子（高16 大英16）

なんといっても「礼拝」です。先生 生徒
そして時には外部からのお客様のスピーチ。
今考えるとまさにこの時間が、現在多方面で
活躍している卒業生の基盤になったと確信し
ます。

シュバイツァー博士のもとで働き のちに
ネパールでの医療に貢献された岩村昇先生。
東京芸大卒業の翌年23歳でNHK交響楽団
のコンマスに就任し話題になった海野義雄氏
がまだ学生だった時、どういう経緯なのか女学
院で演奏されました。バイオリンをしていた友
人はキャアキャア騒いでいました。そしてまる
でヘレンケラーのように聴こえない話せない
外国からのゲストが、同伴の女性の掌に何かを
書きそれを同伴者が英語で話し、それを上野先
生が通訳されるという事もありました。今もこ
ういう時間ってあるのかな？

春だったと思いますが「花の日礼拝」があり
ました。家に咲いている花を持っていき礼拝で
飾った後 拘置所、児童施設などに持って行き
ました。広島城の近くはまだ殆ど何もなく、児
童施設を訪問した時は子供ながら少しショッ
クでした。戦後の名残がまだまだあちこちに残
っている時代でした。

そして「英語教育」。毎日お昼時間に、男性の
ウィリアムズ先生のテレビ番組を見てその
あと小テストがありました。「RとL」「TH」
「FとH」の発音…しっかり教育されました。
当時山沢先生にクラス全員に英語の名前をつ
けてもらいました。可愛い友人は「ジョセフィ
ーナ」私は何だか冴えない「ニイナ」。でもこれ
は良い名前だと先生に教えて頂いたのを今思
い出しました。こんな思い出話を通じるのは果
たして何人？違う年代の方の思い出も聞いて
みたいものです。



俳句

野村久子（高女五二 専保二）

原爆のドームが墓標ヒロシマ忌

夏草が覆う被爆の瓦礫かな

黒揚羽翅をたたみて学徒の碑

こころの喪いまだ解かざる原爆忌

風死して心に重き祈りあり

慰霊碑に鳴き囀れるまで法師蟬

線香の紅蓮のはむら原爆忌

あとさきになり花束と流燈

折鶴の尾の直立すヒロシマ忌

生きてゐてこそその出会いや平和祭

和歌

宮河利恵（文英 24）

昨年は女学院にとって、大切な存在である渡辺和子先生、日野原重明先生が天に召された年でした。学生の時、渡辺先生が来学され、キリスト教の時間のご講演でお話になった「愛について」や「泥かぶら」のお話は折にふれて思い出します。ご著書からは「ていねいに生きよう」という言葉が心に残っています。そして日野原先生の行動力やご文章を通じ、私はいつも励まされお知恵を頂き、そして「全人的医療（ホリスティック・メディスン）」という言葉を残してくださいました。今回はお二人がこれからも私達を支えて下さるであろうことに感謝し「働くこと」について考えてみました。

働くことについて

目の前のことでいっぱい駆け出しの

肩に手をおき無言の先輩

失敗しおちこむこともまた精進

誰かみている君の努力を

もしそれがなかったならば違う今日

ひとりひとりが社会を紡ぐ

今日 ここにはたらけること感謝する

大きな存在いつも心に



会計雑記

中田チズ（高 20・文英 2）

私が会計の仕事を引き継いで 2 年経ちました。そこで感じた事を書いてみたいと思います。毎年会員数は増えていますが、振り込まれる会費は毎年減り続けて、昨年度は 300 口を切りました。会員数の約 1/10 です。原因を色々考えるのですが、関心が無い、母校への帰属意識が希薄、会費の使い道が不明などがあると思います。会費の支出の大半は「地区だより」の印刷と発送に使います。そして福祉施設（清鈴園・廿日市高齢者ケアセンター・広島キリスト教社会館・止揚学園）への献金と母校への寄付です。

去年のクリスマス会



地区会の活動としては 2 ヶ月に 1 回、10 名前後集まって清鈴園へ献品する「お下拭き作成」のボランティア活動をしています。お互いに卒業年度は違いますが、やはりそこは同窓生、和気あいあいと楽しんでいます。年末には讃美歌を歌ってクリスマス礼拝をします。一気に学生時代を思い出し、懐かしさで自分の年を忘れます。ささやかな活動ですが一人でも多くの方に手伝って頂いて、続けていきたいと思っています。皆様の参加をお待ちしています。

2017 年度会計報告

会計・中田チズ（高 20・文英 2）

収入	前年度繰越金	119,866 円	支出	地区だより（印刷・発送）	247,272 円
	会費（297 口）	297,000 円		振込手数料・雑費	28,868 円
	寄付金	1,000 円		献金・寄付	90,000 円
	定期預金より入金	100,000 円		会議費	14,480 円
	その他	1,718 円		次年度繰越金	138,964 円
合計		519,584 円	合計		519,584 円

会計監査・森 静子（2018 年 4 月 3 日実施）

尚、40 万円の定期預金があります。赤字続きでやむを得ず昨年度から献金を減額しました。しかも創立 130 周年記念事業費として 5 万円を出金しましたので、定期預金を解約して 10 万円を会計に入金しました。上記の理由により、今回は振込用紙を「青色（送料自己負担）」とさせていただきます。どうぞご理解をお願いいたします。

皆さまの声 …振込用紙通信欄より…

🌸 いつもありがとうございます。色々のご活躍されていて頭がさかります。いつかご一緒させて頂きたいと思いつつ日常の事に追われております。（佐伯区・新本孝子）

🌸 毎年お便りをありがとうございます。何もお手伝いできませんが、皆さま無理をせず元気でいてください。（佐伯区・香川澄子）

🌸 昨年末のクリスマス会は女学院時代に帰った気分でした。（佐伯区・岡部弘美）

🌸 「先輩にインタビュー」で小田さんと同じ時代を過ぎてきた私にとって、終戦直後の学生時代を懐かしく読ませていただきました。今年も元気で受け取ることができて幸せです。（佐伯区・中村キクエ）

🌸 不安定な世界情勢ですが、自分に出来る事から平和な世界に向けて頑張っていきたいです（佐伯区・西村恵美子）

🌸 今年は OG でもある姪の子が入学しました。可愛い制服姿に感動し、65 年前の制服不揃いのクラス写真に時代を感じ、平和な日々に感謝しています。（廿日市市・中股郁子）

🌸 地区だよりをありがとうございます。「早くお迎えがこんかね～」が口癖の姑を見舞う度、生きるとは、老いるとは、という事を痛切に考えさせられています。今、生かされていることを大事に前を向いて歩いていきたいと思っております（佐伯区・河野幸子）

🌸 酉年の娘が酉年の baby を産みます。初孫にもうすぐ対面なので楽しみです。

（佐伯区・加藤史江）

編集後記

沢山の「皆さまの声」をいただきまして、心から嬉しく感謝しています。❤

今年度から新しい様式の「地区だより」を作成いたしました。

今後共愛読いただきますようお願い申し上げます。（森）

